

「奄美市立市小・中学校の島口伝承活動の取組」

1 学校名

奄美市立市小・中学校

2 学年・人数

小学校1年（2人）、2年（2人）、4年（2人）、6年（1人）

中学校1年（1人）、2年（1人）、3年（2人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和2年4月～3月

毎月第3金曜日 集落公民館

毎月第3水曜日 学校体育館

(2) 発表の日時・場所

令和2年9月13日（日）市小中学校・校区合同秋季大運動会

令和2年11月1日（日）学習発表会・校区合同文化祭

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

(1) 名称

島口伝承活動（しまぐちでんしょうかつどう）

(2) 由来

島口とは、奄美方言または奄美語のことであり、琉球語（琉球方言）の奄美を中心とした地域で話される方言（言語）の総称である。島口を話す島民は減ってきており、平成21年ユネスコにより発表された絶滅の危険がある言語として取り上げられている。

(3) 構成等

本校では、この島口を児童生徒に伝承することで、よりよい島の文化を次の世代に継承していくことで、郷土を愛し、郷土に誇りをもつ児童生徒の育成を図りたいと考えている。

5 保存会や地域との連携の具体

(1) 学校評議委員会

学校評議委員会は、校長・教頭・集落区長・PTA会長・伝承活動代表、民生委員、老人クラブ会長の7人で構成されている。地域行事関係での連絡調整を図る会でもあり、PTA会員を中心に構成された「きらり推進部会」で話し合われた内容を提案し、地域の協力を仰いでいる。

(2) きらり推進部会

主にPTA行事についての連絡調整を図る会である。日程調整、具体的な内容、それぞれの係分担等話し合われる。主なPTA行事としては、「島口」「三味線」「八月踊り」等の伝承活動等である。他にも、「遠泳大会」「校区合同運動会」「学習発表会・地区合同文化祭」について、話し合われる。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

本校では、毎月1回、朝の活動時間を活用し、集落の高齢者の方々を招いて、集落の島口の伝承活動を行っている。普段の生活の中で使う島口を具体的に動作を交えて教えていただき、朝の挨拶、帰りの挨拶を島口で行うなど生活の中で活用しながら覚えている。7月からは、高齢者の方々の指導のもと「島口劇」に挑戦し、「学習発表会、地区合同文化祭」で披露している。

また、島口で作られた、島口カルタなどを活用することで島口を楽しく学び、より身近に感じられるように工夫している。

他にも、「三味線」(授業)、「八月踊り伝承活動」(地域行事)を実施し、島唄を通して島口を学んでいる。「三味線」は、保護者を講師として招き、基本的な三味線の弾き方を教えていただき、島唄にのせて演奏できるようにしている。「八月踊り伝承活動」では、敬老会の方々の協力を得て、島に伝わる伝統的な踊りを教えていただいている。ともに島唄にのせて行うため、島口の理解が必要である。全てが島口で書かれているため意味を十分に理解できていない児童生徒もいるが、地域の方々とのおふれあいを通して島唄(島口)の内容を理解できるようにしている。

7 取組の様子(練習状況、発表の場等)



方言タイムでの島口練習



三味線練習



八月踊り伝承会

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【中学1年生生徒】

普段の生活の中では、島口を使うことはあまりありません。しかし、島口はわたしたち奄美大島出身者にとって大切な文化だと思っています。これからはもしっかり学んで、わたしたちの大切なふるさとを守っていきたいです。

【教職員】

急速に変わる時代の流れの中だからこそ、奄美大島の伝統文化を伝承していくことの大切さを強く感じています。次の時代を担う子供たちに、奄美の大切な文化を学んでもらい、郷土を愛し、郷土の発展に尽くす子供たちを育てていきたいと思っています。

【保存会から】

子供たちが意欲的に学んでいることが嬉しい。これからは子供たちのために、この大切な郷土のために子供たちに指導していきたい。

【地域の方から】

学習発表会での子供たちの発表を毎年楽しみにしています。これからはたくさんの方のことを学んでほしいです。